

接触確認アプリの導入に係る 各国の動向等について

令和2年5月8日

新型コロナウイルス感染症対策テックチーム事務局

1.各国における接触確認アプリの比較（プライバシーと公衆衛生のバランス）

- プライバシーに対する世論と、公衆衛生学上の要請をどのようにバランスさせるか、各国それぞれの実情に応じて対応。

大 ↑ プライバシー 影響度 ↓ 小	国	導入時期 (DL数)	接触把握方法 (位置情報利用/Bluetooth利用)	電話番号等の 個人情報取得	陽性者データ管理 (中央サーバー型/ 個別端末分散型)
	中国	2月 (不明)	自己申告 (位置情報、決済情報等は当局が把握可能)	電話番号等を予めプラットフォームのアプリ導入の際に取得	中央サーバー型
	インド	4月11日 (9000万以上: 人口比7%)	位置情報 + Bluetooth	位置情報・電話番号取得 (氏名、年齢、性別、職業、渡航歴、喫煙歴も取得)	中央サーバー型
	イスラエル	3月22日 (150万以上: 人口比17%)	位置情報 (Bluetooth併用型の開発を進める)	位置情報	分散型
	オーストラリア	4月26日 (500万以上: 人口比20%)	Bluetooth	電話番号取得 (氏名、郵便番号、年代も取得)	中央サーバー型
	シンガポール	3月20日 (140万以上: 人口比25%)	Bluetooth	電話番号取得	中央サーバー型
	英国、 フランス	5月中	Bluetooth	なし	中央サーバー型を検討中
	ドイツ、スイス、 エストニア等	5月中	Bluetooth	なし	分散型を検討中 (Google・AppleのAPI活用)

2.各国における接触確認アプリの利用目的

- 各国のアプリは使用目的により大きく3つに分けられると考えられる。

① 接触度に応じた施設や地域への立ち入り制限・感染者隔離のためのツール (感染者等、個人動向が把握できる形での個人情報取得)

- 中国 (立入制限)
- 韓国、台湾 (感染者隔離)

② 公衆衛生当局による濃厚接触者の把握のための補完ツール (プライバシーに配慮しつつも必要な個人情報は取得)

- インド、アイスランド、ガーナ 等 (位置情報型)
- シンガポール、オーストラリア、英国、フランス (Bluetooth型)

③ 通知を受けた接触者の行動変容による感染拡大防止の、個人向けのツール (プライバシーに配慮し、当局は濃厚接触者を特定しない)

- ドイツ、スイス、エストニア (完全匿名型)
- イスラエル (位置情報のみ把握)

Apple・Googleが開発中の仕様について

○Apple・Googleが開発中のAPI機能の概要は以下の通り。

- iPhone-AndroidのOS間での相互運用性を確保
- 消費電力を節約したBluetoothを使用
- 端末において、アプリのユーザーインターフェースを表示しなくても常時稼働することが可能
- Bluetoothで交換する識別子は、個別の端末内で分散型で管理し、陽性者との接触確認の判断も、個別の端末内で行う
- 接触情報以外の個人情報取得しない



両社が開発中の仕様を追跡確認アプリに活用する際のメリット・デメリット

(メリット)

- ① 端末上で他のアプリを使用中でも他者との接触データを常に取得することができる
(現状では、他のアプリを使用中はBluetoothが機能しない)
- ② プライバシーに配慮した分散型・匿名型のシステムとなる
- ③ 消費電力が少なく済み、携帯電話のバッテリーが長持ちする
- ④ アンドロイド・iOSで共通の仕様となるため、アプリ開発の負担軽減が可能

(デメリット)

- ① 公衆衛生当局において、接触者情報等の取得範囲について、APIの制約に従うことになる
- ② APIの仕様が確定されるまでアプリのリリースの見通しが立てづらい